

入中3年人権だよ

徳島市 八万中学校
3年生 第18号
2021年11月 8日
編集・発行 吉成正士

弘瀬喜代さん人権講演会(10月29日) 第3部

相談されるような人間に

今まで同和問題について何回かお話を聞いてきたけれど、今回が一番私の心に深く残ったような気がします。弘瀬さんの話し方や表情、たまに笑えるようなところが、すごく面白かったし、楽しくお話を聞くことができました。

私が特に心に残ったのは、2つ目のまさひこさんとおみさんのお話でした。私の両親も、まさひこさんの両親のように、自分のしたいことを好きにさせてくれるような人です。しかし、将来もし私が部落出身の人と結婚するとなったとき、賛成してくれるかどうか少し不安に思いました。家に帰って聞いてみようと思いました。もし両親に反対されたとしても、まさひこさんのように絶対一緒になるんだという行動をしたいし、そう思えるような人に出会いたいです。

後半、弘瀬さんが、ここにいる人たち全員が死ぬまでに部落差別に関わるとおっしゃっていました。もし私が困難にぶつかったときに相談できる子を考えてとき、何人も思いつきました。その子たちを私は本当に大切にしたいし、私も相談されるような人間になりたいです。今回の講演会で聞いたことは、私の将来に必ずためになることだと思います。お忙しいなか来てくださった弘瀬さんに本当に感謝しています。人権問題についてもっと深く考えよう、もっと周りの友達を大切にしよう、そう改めて思えた良い時間でした。3組金森真央

お家の人と話すことは、みなさんにとっての一番身近な啓発活動(差別をなくしていく活動)です。部落差別についてよく知っていて、同意してくれ、嬉しく思うこともあるでしょう。でもそうではなくて、関心を示さず、悲しく悔しい思いをすることもあるかもしれません。それでも、自分なりに前に向かって進むことです。時間はかかるかもしれませんが、まっすぐに生きるあなたの姿は、



きっとお家の人を揺さぶるはず。いつか分かってくれと信じ、粘り強く歩き続けることです。みなさんが人権学習の中で学んできた、差別をなくそうと闘ってきた先人

たちのように。

「周りの友達を大切にしよう」

その通りです。そのつながりが、差別をなくしていく、最も必要で大切な原動力なのです。

何が正しいかを判断できるように

弘瀬さんの話を聞いて、結婚差別で同和地区の人だから結婚してはいけないとかは、絶対におかしいと思いました。同和地区に生まれた人も同和地区ではないところに生まれた人も、何も変わらないのに差別をするのはあってはいけないと思いました。生まれたところで、その人の性格や思いが決まるわけがないというのを改めて思いました。

自分が結婚差別などに関わったときは、何が正しいかを判断できるようにしたいです。友達などに相談されたときは、正しいことは正しいと、間違っていることは間違っていると伝えられるようにしたいです。みんなが何が正しくて、何が間違ってるかを判断できれば、少しでも結婚差別などが少なくなると思いました。結婚差別やいろいろな差別が減るようにしていきたいと思ました。
1組神尾明奈

正しいことを知るといことは本当に大切です。でも今の時代、ネットを通じて、先に間違った情報が入ってくることもよくあります。私たちは、先に入ってきた情報を信じ込んでしまう一面があるので、後からの情報が正しくても、なかなか切り替えられなかったりします。つまりネット社会は、何が正しくて何が間違ってるのか、よく分からない社会だということです。これは本当に気をつけなければなりません。みなさんも、大人である私も。

今、部落差別はネット社会を中心に、間違った情報が全国に広がっています。ネット上にあやふやな情報が書き込まれると、すぐにそれに追従したり、煽ったりする書き込みが後を絶ちません。そしてそれを見た人が、新たに悪意を持つ。よく知りもしないのに書き込む人が悪いのですが、それを野放しにしているネット環境もどうかする必要があります。でもそこに規制を設けるとなると、「自由がなくなってしまう」とか、「表現の自由が奪われてしまう」とか、「規制社会になってしまう」とかいう反発も出てきます。となるとやはり、一人一人の人間の確かな判断力が求められるということになります。

実際に自分の目で見て、聞いて、「もし自分だった

